

Learning To Learn(学び方を学ぶ)能力を身に付けよう

授業での「ノート」の取り方、使い方
- 学力を「定着」させるために、授業中の「ノート」を活用しよう -

開倫塾
塾長 林 明夫

- Q：学力を身に付け、学校成績を向上させ、偏差値を上げるために、「絶対」必要なことは何ですか。
- A：(林明夫：以下省略)学校や開倫塾の授業、自学自習などで一度「うんなるほど」と十分に「理解」した内容を「身に付ける」こと、つまり「定着」させることです。
- 英語の「Learn(ラーン)」や日本語の「学ぶ」には、一度「うんなるほど」と十分に「理解」した内容を「身に付ける」、「定着」させるという意味があります。
- 「成績」や「偏差値」を上げる上で大切なことは、英語の「Learn(ラーン)」や日本語の「学ぶ」、つまり、一度「うんなるほど」と十分に「理解」したことを「身に富Z 分ペ / ン

Q : 「ノート整理」とは何ですか。

A : よい質問ですね。授業が終わったあとに、「学び」やすい、つまり「身に付け」「定着」しやすい

1 .
(1)
(ア)
(イ)
(ウ)

ようにすることです。例えば、大切な語句にマーカーや色えんぴつで印をつけたり、必要なことを書き加えること。項目に、1 . (1)、(ア)(イ)(ウ)などと図のように番号をつけることも大切です。

テキストの対応するページも入れておくと便利ですよ。

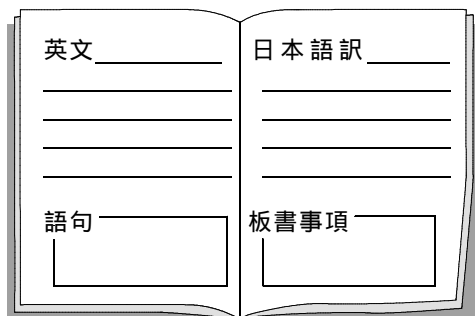
Q : 例えば、英語の「ノート」はどのように取ったらよいのですか。

A : できれば、その日の授業で勉強する英文は、予(あらかじめ)めノートに書き写しておくことをお勧めします。英文を書き写すときは、2行から3行おきに書き写しておく、授業中に先生が教えて下さった内容をそこにメモすることができますよ。

ノートは、イラストのように見開きで用いて、ノートの左ページに英文を書き写し、語句の意味を調べたときは左ページの下にメモをしておくこと。右ページに自分で訳した日本語訳を2~3行おきに書き、その下に先生が黒板に書いた(板書した)ことをメモしておくこと。

赤のボールペンで、授業中に先生が訳したものをメモすること。

英語ノートの例



英文を「書き写す」のが大変なら、教科書をコンビニで拡大コピーして、ノートに貼りつけること。(学校や開倫塾のコピー機は使用しないで下さい。コピーは、お金を払ってコンビニでしましょう。150 ~ 200 %に「拡大コピー」をしたほうが、「行間」にメモがしやすいと思います。)

Q : やはり「予習」は必要なのですね。

A : テキストの本文を書き写し、語句の意味調べをし、自分で日本語に訳すような本格的な予習はできなくても、コンビニに行き、テキストの本文を大きく拡大コピーしてノートに貼りつけるような「授業準備」は、それほど難しくはないと思います。月1回、1時間もかけないでできますので、ぜひ実行して下さいね。数学も、ノートにテキストの問題を解いてから授業に臨むことをお勧めします。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : 「テキスト」や「ノート」は、授業後にもう一度ゆっくり読み返し、少しずつでもよいですから、大切なところから「身に付け」「定着」させましょうね。

「テキスト」や「ノート」を用いての「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」が、学力の「定着」には絶大な効果を発揮します。

その上で、入試問題を5年以上行い、同じ問題をできれば4~5回すべてノートにやり直すと、「偏差値」は4~5確実に上がります。

「ノート」の取り方、用い方を工夫しましょうね。